

第3回 仙台市総合計画審議会市民の暮らし部会議事録

日 時	平成22年10月26日（火） 18：30～20：30
会 場	仙台市役所 2階 第四委員会室
出席委員	足立千佳子委員、阿部一彦委員、内田幸雄委員、大村虔一委員、菊地昭一委員、小松洋吉委員、佐竹久美子委員、鈴木由美委員、庭野賀津子委員、針生英一委員、樋口稔夫委員、水野紀子委員、柳生聡子委員 [13名]
欠席委員	永井幸夫委員、西澤啓文委員 [2名]
報告者	林信吾氏、宮本浩氏
事務局	大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹、柳津総合計画課主幹、堀田青葉区役所区民部長、吉岡宮城野区役所区民部参事、阿部若林区役所区民部参事、古谷太白区役所区民部長、青柳泉区役所区民部長
議 事	1 開会 2 議事 (1) 市民参画事業の実施状況について (2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の見直しの方向について (3) 区別計画について (4) その他 3 閉会
配付資料	1 市民参画事業の実施状況について 2 まちづくり市民フォーラム結果報告 3 基本構想・基本計画（中間案）に対する市民意見の概要 4 基本計画（中間案）の区別計画について 5 審議会日程（案）

1 開会

小松洋吉部会長

それでは皆さん、こんばんは。お寒いところ遅い時間にご出席いただきまして、大変ありがとうございます。ただ今より第3回市民の暮らし部会を開催させていただきます。以降座らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

最初に、本日の議事録署名委員を指名させていただきたいと存じます。50音別でということでしたので、今回は内田委員にお願いしたいと思います。

内田幸雄委員

前回の分で協力しましたけれど、今日もいいんですか、もう一回。

小松洋吉部会長

前回、でしたら。

梅内総合計画課長

であれば、大村会長、申しわけございません。

小松洋吉部会長

大村先生、一つよろしく願いいたします。

大村虔一委員

分かりました。

小松洋吉部会長

それでは、議事録署名についてはお願いしたいと思います。

次に、定足数等の確認を事務局にお願いしたいと思います。

梅内総合計画課長

冒頭から不手際がございまして申しわけございません。大村会長よろしく願いいたします。

本日の出席者でございます。現在12名の委員にご出席いただいております。庭野委員がご出席のご予定であります、少し遅れていらっしゃいます。定足数を満たしてございますのでご報告をいたします。

続きまして、お座席の資料の確認をさせていただきます。座席表、次第、資料一覧、そして各一枚もので右肩に資料番号を振ってございます資料1～5、そしてまち歩きフィールドCafeの報告資料、スライドの印刷したものになります。そのほかに、第1回審議会からのファイルを置かせていただいております。

事前に郵送いたしました資料は暫定版でございますので、本日の1セット資料入り封筒を用意しておりますので、お持ち帰りいただければと思います。

また、後ほど議長からございますが、本日、区別計画についてご審議いただきますので、各区役所から職員が事務局に出席していることをご報告いたします。

以上でございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

柳生委員が7時45分ぐらいまでということですので、それまでよろしく願いいたします。

柳生聡子委員

すみません。よろしくお願いします。

2 議事

- (1) 市民参画事業の実施状況について
- (2) 仙台市基本構想・基本計画（中間案）の見直しの方向について

小松洋吉部会長

それでは、早速でございますけれども、議事に入らせていただきます。

本日は次第にもありますように、三つございます。

一つは市民参画事業の実施状況についてでありまして、これにつきましては「まち歩きフィールドCafe」と「まちづくり市民フォーラム」の報告があるわけです。それを受けまして、市民力について議論を深めていければと思っております。

二つ目には基本構想、基本計画の見直しについてであります。これは中間案に対する意見を募集されましたが、その後の修正をどうあるべきかについて議論をお願いしたいと思います。

三つ目に、中間案まで十分に議論もできなかった区別の計画についてです。これにつきまして、皆さんから意見交換を行ってまいりたいと思います。

議事としては次第にあります（１）と（２）、これを一緒に進めていきたいと思えます。

はじめに資料１にあります、「市民力をテーマとした取組」の報告をお願いしたいと思います。事務局よろしく願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは資料１をご覧ください。これまで秋口、夏から秋にかけて実施してまいりました、市民参画事業の実施状況でございます。まずは１番の「市民力をテーマとした取組」についてご報告をさせていただきます。

最初に、８月２８日、９月４日２週にわたりまして３０名を超える市民の皆様にご参加いただき、またファシリテーターとして足立先生、内田先生、針生先生に多大なご協力をいただきながら「まち歩きフィールドCafe」を実施してまいりました。市民力が発揮されている現場を実際に市民の方に見ていただき、お話を聞いていただきながら、そしてこれから市民力の発揮について何が必要かということを考えていただくようなフィールドワーク型のワークショップを行ったところでございます。

本日、参加者の方にこのご報告をお願いしております。昨日も都市の魅力部会で二名のご報告いただきましたが、本日また別の二名の方にご報告をお願いしているところでございます。お一人は宮本浩さん、もうお一人が林信吾さんになります。ご紹介いたします。

皆様から向かいまして右側が宮本さん、左側が林さんでございます。ただ今から報告になりますが、そちらのスクリーンの方にプロジェクターで映像を映して、ご説明になる予定でございます。大村会長側の委員の皆様には少し見づらいと思いますので、椅子の向き等を変えて見やすい姿勢にお移りいただければと思います。

それでは最初に宮本さんから発表になります。よろしくお願いいたします。

宮本浩氏

よろしくお願いします。宮本といいます。

今回、自分がこの「まち歩きフィールドCafe」に参加したのは、いろいろな年代の方と実際に現場を見て、仙台のまちづくりを語り合うというところが面白そうだなと思い参加しました。

「壱弍参(いろは)横丁」では、実際にそこで働いている方から話を聞くことができたり、今回初めて知った井戸などを見ることができました。グループの意見は全体的に汚い、暗いというイメージを改善した方が良いという意見が多かった反面、昔ながらのこういった場所を今後も守ってほしいというものでした。

「せんだいメディアテーク」では本を借りたりできるスペース、作品を展示するギャラリーのほかに、普段なかなか見ることがない、地下の活版印刷の道具が置いてある場所などを見ることができました。グループの意見は本を借りたりする以外に何ができるのかが分かりづらい、普段一般公開されない部屋や珍しい本などを見るツアーを企画してはなどの意見が出ました。

「あかねグループ」では高齢者宅への配食サービスの話や、実際に車で配達しに行くところを見ることができました。グループの意見は、高齢者一人一人に合わせて食事を提供するだけではなく、一人暮らしの方の話し相手になってあげられるのが良いなどの反面、ボランティアスタッフが高齢の方が多く若い人にも参加してもらっては、配達地域を拡大させるとサービス展開になるのではなどの意見が出ました。

「TRUNK」は33のオフィスからなるオフィスフロアで、それぞれジャンルの違う仕事をしている人がそこで出会い、そこから一緒に仕事をしたりと、お互いにいい刺激になっている場所だという話を聞きました。グループの意見はこのTRUNKのような場所を増やしてほしい、アーティストたちにもっと仙台に携わる仕事をしてもらうようにしてはなどの意見が出ました。

全体会ではまちづくりについて考え、まちづくりに参加してもらうためのCMまでつくるというものでした。まず各自で自分の得意なことやしてみたいことをそれぞれ書き、その中から共通しているキーワードを探してみると、人と人とのつながり、イベントなどから高齢者の方と若い人をつなげる地域密着のイベントを開催したらどうかというのにまとまりました。次に、そのイベントの参加者を募るCMを考えることになりました。CMをつくる上で考えたのは、単なる地域密着イベントの参加者を募ることや告知をするだけではなく、イベントのテーマ性も伝えられたらと思いました。それらを考えてできたのが、最初に二人が何かイベントをしたいと話すところから始まり、一人また一人と僕にはこれができる、私にはこれができると言って手をつないでいく、そして最後の一人がつながり、もう片方の人とつながって円になると思ってても距離があってつながらない、そこでナレーションで「まだ足りません、あなたが必要です、イベントに協力してくれる方を募集しています」と言い、最後にみんなで「よろしくお願いします」と言って終わるという形になりました。活動を通して人と人をつなぐようなイベントをするには、人ももちろん大事なんですが、表現できる場所が必要だと改めて思いました。

自分は海外旅行が趣味で、その度にいろいろなまちを見ていくと、仙台もこうしたら

いいのにと考えることがあります。まだまだ仙台にはアーティストなどが発表する場所や機会が少ないと思います。例えば音楽、アート、演劇、各種イベントなどを誰かに見せたいと思っても場所がない、あっても値段や条件が合わなくあきらめたりする人は多いと思います。もっと表現できる場所をつくってもらいたい。例えば、どんな用途にも使える倉庫みたいなスペースを格安で貸し出したり、商店街の空き店舗のところを空いている間に貸し出したり、地下鉄の地下道のところをストリート・ミュージシャンなどのパフォーマンスの場所にするなど、そうすることによりアーティストの才能が育ち、それらを見に他の地域から人が来るようになると思います。様々なアーティストが仙台で生まれることによって、それは必ず仙台にとって、ものすごい財産になると思います。

逆に、既にあるものも考え方一つで、今より良くなるものもあると思います。例えば仙台で一番歴史のある公園、西公園。東西線も通るということで、整備案が出ていたのですが、正直これはただ舗装しているだけだと思います。西公園はアメリカニューヨークのマッドハットンにあるセントラルパークのように、市民や訪れた人をいやすことのできる場所になると思います。それには例えば、西公園の砂利の道をジョギングロードにして、市民のストレス発散や運動不足解消の場にする。それと旧図書館の建物のところ、今は使われていないのですが、おしゃれなカフェにする、そこで宮城の食材を使って料理などをつくり提供する。後は、旧図書館前の広場などを芝生にして子供が遊んだり、寝転がって本などを読んだりできる場所にする。今挙げただけでも、今よりも魅力のある公園になると思います。

後は、外国の観光客の方にも分かりやすい交通整備をしてもらいたいと思いました。外国の地下鉄などは路線別に色分けされていて、分かりやすかったです。そうすることによってもっと外国の方も来やすくなると思います。以上が自分の考えです。

今回参加して思ったことは、いろいろな年代の方と話を一緒に考えるということの面白さ、実は言わないだけで、仙台のまちに対してそれぞれ考えがあるんだということを知りました。今回は総合計画をつくる上で開催したということなのですが、こういった機会を定期的にやってもらいたいと正直思いました。もっと市民の意見を聞いて反映させてほしい、それがそのフィールドのためになり、仙台のためになり、市民のためになるからです。そういった意味でも今回の「まち歩きフィールドCafe」はすごくいい企画だったと思います。

今回は自分に話をさせていただく機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

以上で終わりたいと思います。

梅内総合計画課長

宮本さん、ありがとうございました。

続きまして、林慎吾さんの方から発表していただきます。林さんの発表につきましては、お手元の方にプリントを用意してございますので、併せてご覧いただければと思います。では、林さんよろしくお願いいたします。

林慎吾氏

本日は貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。私は今、社会人で学生をやっております、林と申します。よろしくお願いします。

早速「まち歩きフィールドCafe」の結果について報告させていただきたいと思います。初めにこちらの実際自分たちが体験したものを四つ紹介します。

「あかねグループ」ではこちらの写真のとおり、非常に元気なおばあちゃんが社長ということでやられておりました。この中で最も印象に残ったのは、有償ボランティアということです。ボランティアとの違いは何かということなのですが、対価をいただくということで、スタッフのほとんどが女性ということもあって、夫の稼ぎでボランティアをしたくないというようなところで、メリットがあるとおっしゃっておりました。また購入側も無料よりも対価を支払った方が良いということで、心の差をなくすというところにメリットがあるとおっしゃっておりました。また、反対に課題につきましては、活動力を高めるには後継者が必要ということがあります。というのは平均年齢が62.3歳ということでございました。また、会員のサービスも増やすといったようなことをおっしゃっておりました。

続きまして「TRUNK」でございますが、こちらは非常に面白いまちづくりの仕掛けをしておりまして、元々地区にあった資源、ホテルでございますが、こちらを活用して最先端の技術を取り入れているといったような場所でもございました。また、大学とのコラボレーションも実施しておりました。

続きまして「壱貳参横丁」でございますが、こちらは「TRUNK」とは対称的にすごく積み重なった歴史や人々に培われた空間ということで、こういったものも非常に大事なんだなと私も感じました。また、こちらは地元の方だけではなく、海外からの観光地としても使えるのではないかなと思っております。先程ですね宮本さんからも発表がありましたが、こちら写真のようにこういった井戸の体験とかもできますので、こういったところは非常に魅力があるのではないかなと思っています。一方で課題がございまして、こちらはトイレの改修ですとか各店舗が少し暗いという印象がありましたので、もっと明るくすれば市民の方々が入られるのではないかなという感じがありました。また、一般の若い人たちの意見を聞けるようなイベントを企画といったものが、課題としてあげられておりました。

「せんだいメディアテーク」でございますが、こちらは可能性との出会いの場ということで、仙台短編映画祭ですとか、こちらの卒業設計が非常に注目されておりました。最先端の文化にふれることができる場でございます。

こういったところを実際に経験してみて、会議の場を設けましてグループディスカッションをさせていただきました。ここでのメンバーの意見でございますが、非日常的な空間ということで、年代や業種が違ような方々とコミュニケーションをとることが非常に大事であるということに気付きました。また、Face to Faceのコミュニケーションは非常に重要であると感じております。また、世代間での問題意識というのがそれぞれ違っているのではないかなと思いました。例えば、若い人ですと出会いの場を求めたいとか、そういったところが中心にありました。反対に年配の方々は福祉とかそういった

介護に注目しておりますので、そのベクトルを一つにしていくことが難しいなと思いました。

そこで、我々がつくった市民力として何ができるかということで、つくった会社が、仮想の会社でございますが、「縁の下の力持ち株式会社」ということで、同じような悩みを抱えている人同士が集まるような場の提供ができる会社を提案いたしました。またこの場の提供でございますが、介護福祉ですとか出会い、イベントの三つの軸を提案させていただいております。

実際に「まち歩きフィールドCafe」につきまして、どういった場所だったかということにつきまして、参加前と参加後について比較して紹介したいと思います。参加前は、何かやりたいという気持ちですとか、潜在的に持っておりました。また仙台市の情報、今インターネットとかでいろいろあるんですけども、情報が整理できないといったことがありました。また、仙台市の現状について知りたいですとか、やはりコミュニケーションの場として活用したいというような期待を持っていました。参加後でございますが、やはり自分も市民力をもっているんだなというようなことに気付きました。また、その個々の市民力を組み合わせることで、様々なことができるのではないのかというような気付きもありました。そして、仙台市の中では、先程ご紹介させていただきましたように、もう既に市民力を発揮している人がいるというような気付きもありました。また「まち歩きフィールドCafe」では、そういったことを実際に見て・体験することができる場であるということで、非常に気付きの場であると感じることができました。

こちら最後のスライドでございますが、まとめさせていただきます。まとめと提案という形です。一つは市民力再認識ということで、先程と重複するんですが、知らないところで市民生活にかかわる分野の市民活動が既に行われているといったことがありますので、そのような市民力をまず支援していく活動が必要ではないかなと考えました。また、自分も実際に市民力に気付いたわけでございますが、今回の「まち歩きフィールドCafe」を通して、自分たちにも市民力があるということに気付いた参加者が多かったと思いました。こうした気付きの場を促すような場の提供をしていただければなと思います。また、最後に市民力・行政ということでございますが、市民力の育成と発展を進める行政自身も、市民力について十分に理解し、発揮していくような改革を行っていく必要があるのではないかなと考えました。というのは市民力を受けとめ、市民力を引き出していくということも必要ではないかということがあります。

このような現状を踏まえて二つ提案させていただきます。一つは地域を結び付けるとか、これは町内会とかそういったものを活用した方が良いのではないかなと思っております。また、地域の学習の場として、お金や時間がない状況の中でいかに場を提供するかということでございますが、こちらは学校の給食の時間に地域の方々をお呼びして、お話をさせて子供たちが話を聞くといったような場が良いのではないかなと思いました。最後、もう一つの提案でございますが、企業の市民力ということで、例えば今団塊の世代がどんどんリタイヤしていく中で、そういったところの力というのも非常に有意義ではないかなと。というのは、企業で培った能力がありますので、そういった力というのは非常に大きいかなと感じております。

以上で、発表を終わらせていただきます。本日はご清聴ありがとうございました。

梅内総合計画課長

ありがとうございます。「まち歩きフィールドCafe」の報告は以上でございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

今お二方のご報告をお受けいたしました。何か委員の皆さんからご質問等ありましたら、この機会に。すばらしい報告をいただいたと思います。

また、ファシリテーターをしていただきました、足立委員、内田委員、針生委員、何か付け加えること等ありましたら、是非お願いしたいと思います。もし付け加えることがありましたら。何でも結構ですが委員の皆さんからご感想でも結構でございます。何かありましたら。

針生英一委員

では、ちょっと一言だけ。今回ファシリテーターをやらせていただいたんですけども、大変ファシリテーターする側は苦労しました。短い時間の中で、実際にフィールドCafeの場合は一か所に当たられる時間が1時間半なんですけど、その中で実際にその場を見て、話を聞いて、そしてワークショップ30分と、30分でワークショップをどうやれば良いんだろうというのを我々は非常に悩みまして、その中でどれだけのものを持ち帰ってもらえるのかというのは我々の大きな宿題だったんですけども、今の発表を聞いて、短い時間の中でもいろいろなことを感じていただけたというのは、我々ファシリテーターの力量はまだまだ足りなかったと思うんですけども、良かったかなと思います。ありがとうございました。

小松洋吉部会長

そうですね、ありがとうございました。

ほかの委員の皆さんどうですか。いかがですか。大変これはすばらしい企画であったなと改めて思いましたけれども、さっきの発表でもありましたけれども、今後継続的に続けてやることができれば、とても大きな力につながっていくのではないかと思います。そして定期的に市民の声を聴くというお話もいただきました。本当にそのとおりすばらしいことだろうと思いました。また、すばらしいいろいろなアイデアもいろいろちょうだいしたと思います。また新鮮な感覚で、ご報告いただいて大変感謝でございます。ありがとうございました。

委員の皆さんいかがでしょうか。水野先生、何か一言、二人に発表していただきましたから。

水野紀子部会長代行

本当にすばらしい、いきいきとした、大変コンパクトな、コンパクトで充実した発表

で、もし成績つけるなら優をつけてあげたい。本当にありがとうございました。

小松洋吉部会長

本当にありがとうございました。

いかがですか。皆さん。よろしゅうございますか。

それでは、ありがとうございました。ご発表いただきました宮本さんと林さんに、本当に感謝申し上げたいと思います。皆さんどうぞ拍手をお願いしたいと思います。

(拍手)

小松洋吉部会長

ちょっと発表時間が少なかったかもしれませんが。どうもありがとうございました。

それでは次に行きますが、よろしゅうございますか。

では続きまして、もう一つの市民力をテーマにした市民フォーラムが開かれました。これにつきまして、参加された方もいらっしゃいますが、事務局から報告の程お願いしたいと思います。よろしくどうぞ。

梅内総合計画課長

資料1と資料2を併せてご覧いただければと存じます。

市民フォーラム、こちらは10月10日せんだいメディアテークオープンスクエアにおきまして、市民力をテーマにいたしまして、ただ今の「まち歩きフィールドCafe」の参加者の方の発表であるとか、3組、町内会からの発表、NPOやボランティアをされている方からの発表、そして、企業市民力ということで企業でNPO活動のようなものを援助していただいている方に発表いただき、それをテーブルトークで市民の皆様にお話し合いをいただきながら、また、審議会の委員の皆様に行役をお願いしながらテーブルトークを行い、最後にパネルディスカッションで総括をしていただいたという形でございます。参加者は市民の方87名にご参加いただきました。

資料2の3番のところに内容をまとめてございます。こちらの方でも様々な良い意見をたくさんいただきまして、情報の充実であるとか出会いの場の充実を求める声、また裏側でございますが、市民力を高めるためにやはり市としてもコストと時間をかける必要があるのではないか、活動拠点等の整備が必要、企業の社会貢献活動に参加する仕組みづくりでありますとか、行政側の対応づくり、ただ今のフィールドCafeの方の報告からもあったようなご意見をいただいたところでございます。

こちらの方も、一番下のところに感想の欄がございますけれども、参加者の方には非常にご好評をいただいたものと思ってございます。ただこちらの方も、かなり委員の皆様にご負担をかけながら、先程針生委員からもありましたが、フィールドCafe、市民フォーラムともちょっと内容を詰め過ぎた中でやっていました。ところがこれだけご好評いただきまして、本当に担当していただきました委員の先生方に感謝をしております。

また、先程もありましたけれども、こういったフィールドCafeでありますとか、フォーラムのような取組を、総合計画だからというだけではなくて、やはり市で、地域なりそういう場所で常に関きながら市民の方と意見を交換したり、市民の方に気付きの場となるような、そういう取組を行うべきではないかという意見もありまして、そういったこともこれから計画の中、あるいは各事業の取組の際必要なことだというふうに、こちらの方も認識いたしたところでございます。以上でございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

ご出席いただきました委員の皆様もお越しでございます。何かお気付きの点、あるいは補足、感想等がありましたら、お聞かせいただきたいと思います。

私自身もちょっと出席、私の都合で全部は出席できませんでしたけれども、雰囲気といい、大変すばらしい企画であったと思います。とにかく出だしは遠藤さんと大村先生の掛け合いで始まりましたのですけれども、大変やわらかな全体の説明があったと思います。

どうぞご出席いただいた委員の皆さん。何か感想やら、補足等いただけたらありがたいと思います。

内田委員いかがでしょうか、何か。ごめんなさい。

内田幸雄委員

僕も一つのグループだけ担当させていただきましたけれども、足立委員と一緒にイベントやりながら、まち歩きフィールドCafeとはまた違った雰囲気で、全体的な雰囲気からすると、いわゆるメディアテーク1階のオープンスペースのごちゃごちゃしたところで、テーブル以外のあそこに遊びに来た人たちが遠巻きに見て、何をやっているんだろうなと見ている、そういう雰囲気もまた良かったんじゃないかなと。

結局、あそこで話し合われている中身もさることながら、そういうことを展開しているものが、わざわざ傍聴しに来るわけではなくて、何か来てみたらやっていて、そしていろいろな形で話し合われているということが、遠巻きで見られるということ自体、ものすごい力になっているんじゃないのかなということを非常に感じました。

小松洋吉部会長

そうですね、ありがとうございました。

足立委員何か。補足みたいな、感想でも結構です。ごめんなさい。

足立千佳子委員

すごい内容が盛りだくさんで、今までの流れを理解していれば、ああこういう狙いなんだろうなというのは分かるんですけれども、やはりその日参加してくださった方たちに、どこまで伝えられたかなというのはちょっと不安があったりしたので、そういうのもちょっと配布資料のつくり込みとかがもう少しあっても良かったのかな、どうなのか

なというように不安があったんですけども。今日のこの資料をみると、まあ好評だったようなのでほっとしております。

以上です。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

テーブルトークで出された意見もここに一緒に紹介されておりますけれども、大変なんか、的を射た、中核的な、大変視点の良い意見をいただいていると思います。

ほかこのことに関していかがですか。針生委員と当日、私は顔を合わせなかったですけども、いらしていただいたんですか。

針生英一委員

はい。私もテーブルを一つ担当してやらせていただきました。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。何か。

針生英一委員

時間がちょっときついで、ちょっとそれはそれで苦労したというのはあるんですが、一つやはりせっかくこういうことで集まった方々で、意識もそれなりに高い方が集まったかと思うんですね。彼らに対して、情報だけ与えて勉強だけさせてそれで終わりでは非常にもったいないなと思って。やはり次の活動につなげるような仕掛けをどうつくるのかということも、宿題としてはあるかなということをちょっと感じました。

小松洋吉部会長

そうですね。ありがとうございました。

それでは、この二つの取組を踏まえていろいろ意見をいただくわけですけども。とりあえずこの二つにかかるテーブルトーク、ディスカッション、それからカフェの話はこれでよろしゅうございますか。

それではひとまず、これでこのことは終わりにさせていただきたいと思います。

これからこの二つの取組を踏まえまして、今市民力がテーマですので、この部分について皆さんにこの中間案の見直し、考え直さなければいけないのかどうか、いろいろ意見があるのではないかと思います。

ここに、資料2にも数件の意見が出ております。こんなことも踏まえまして、市民力について中間案をどういうふうに見直していったらいいのか、自由にどうぞご発言いただきたいと思います。

ここに一番先に「何かしたい気持ちはみんなもっているが、どのようにつながったらいいのか分からない」というのがありますね。これは率直な意見だろうと思います。コーディネート機構というか機関みたいなものも、やはり何か工夫しなければ、市民力が

なかなか表面化しないのかなという気も、私はなんか率直に思いました。

委員の皆さんどうぞ、ご自由にご発言いただきたいと思います。どうぞ、何でも良いと思います。今までのことを踏まえまして、市民力。どうぞ、足立委員。

足立千佳子委員

それでは基本的な確認なんですけれども、この市民参画事業を実施して、これがどのようにこの総合計画とか何かに盛り込むべきだったのかというところ、一度確認させていただいて。この市民力について市民の皆さんのご意見を聞いたという位置づけでよろしいのでしょうか。そこら辺、少しお願いしていいですか。

小松洋吉部会長

どうぞ。

梅内総合計画課長

今日、区の職員も来てもらっているんですけれども、これから次年度に向けて地域政策等の見直し、あるいはその市民力、市民協働の新しい仕組みづくりを考えるということで。例えば、今回の二つの事業なんですけれども、やり方として特にフィールドCafeなどは、今までなかなか市役所の方で取り組めなかったやり方、取り組んでいなかったものを取り入れてみたということでございます。

それで、ただ今お二方から発表ございましたけれども、意識の高い方にご参画いただいたということもあって非常に良い発表、良い内容になったなあとっておるんですけれども。フィールドCafeであったりフォーラムであったり、こういった手法をいかに様々な事業の中に入れていくかということで、今の市民局でありますとか、別の部署、当日も見に来てもらったんですけれども、そういったところで、どういうつくり込みをしていくかということも含めて、次年度に向けた事業を検討しております。

また、ここで出された意見についてももちろんなんですけれども、こういった意見が、やはりやれば同じように出てくるんだろうとおっておりますので、そういった場をどうつくっていくかということに対して、どういう準備ができるかということ、計画の中で、十分にできるかどうかというのはあるんですけど、回答を考えていきたいなということで、今ワーキングチームをつくって検討しております。

小松洋吉部会長

次につながるよということと、それからいただいた意見等も、今回の計画の中に取り込んでいけるものは最大限に努力することなんだろうと思います。

そういう理解でよろしゅうございますか。

梅内総合計画課長

はい。

小松洋吉部会長

足立委員、そういうことなのです。

足立千佳子委員

そうすると、今回のような事業をほかの部局とかでも、市民参加とか協働の形で取り入れていくためのモデル的な取組の一つでもあったということですか。

小松洋吉部会長

どうぞ。

大槻企画調整局次長

これまで、市民参画のあり方というのが、大体いつも一問一答だったり、説明会形式だったりというようなことがありますけれども、今回はファシリテーターの方々がそれぞれのグループについてフィールドを見たり、あるいは一人一人の意見を丁寧に聞いて意見を集約したりというようなことがありますして、これは地域の課題解決とか、あるいは魅力づくりにいろいろな形で応用できるような、新しいスタイルができたんじゃないかなと思っております。これを今後、市民力を様々な分野で生かしていく上で、いろいろな形で生かしていきたいし、それをまたこの総合計画の中に文章として書き入れていきたいなと考えております。

小松洋吉部会長

手法はまさしく協働のまちづくりですよ。

大村虔一委員

よろしいですか。

小松洋吉部会長

どうぞ、大村先生。

大村虔一委員

おおざっぱに言って、そういういろいろなことをやりだしている人のところを、回って、ふれて、理解するというプロジェクトは今まで随分、やられていたと思うんですね。いろいろな企画でバスに乗ったり、市民がいろいろなことをやっているのを短い期間だけれども、現場にふれて、体験して自分たちの考えをまとめてもらうところまで、突き詰めたところに今回の取組の面白さがあると思います。けれども、本当はもっといっぱいあるわけですよ。

先程の「壱式参横丁」なども地元の人々の再開発の気持ちと、若者たちの神社などをロープを使って何かしたい意気込みなどいろんなものがあって、プロジェクトは随分前にできて「壱式参横丁」という名前もそのときに生まれていますよね。

そういう具体的なプロジェクトをつくるのが、市民がやりだす面白さだと思うんですね。光のページェントとか、ストリートジャズフェスティバルもそうだったけど。行政がやると、どこかが担当するかといった話になるものを、どこの部局の担当かわからないことをどんどん進めてしまう良さがあって、それをもっと皆に知ってもらうにはどうしたら良いかという役割として、先程のようなことがあるのではないかな。

もう一つは、やはり皆が心に思っていることを、やってもいいよっていう仕掛けが一番力があるような気がするんです。大勢の人がいろいろな知恵を持っているけど、いろいろなところに相談すると、実現できなくなっていくのが現実なんで、相談すると事案が転がっていけるようにするにはどうしたら良いか。そのとき、NPOや、企業や、行政が、それと連携して転がれるようにする仕組みをどうやってつくったらいいかが大きなテーマです。今回の取組はそこごく一部をさわっているけど、もう少し大胆に押し進める必要があるかなと思いますよね。

小松洋吉部会長

連携して行う仕組みづくりというのも、大変大きなテーマだろうと思います。そのことによって市民力も何倍にも跳ね上がるということなんだろうと思います。これも大変重要なことであると思いますので、すぐに全部はできないかもしれませんが、問題意識を共有しながらやっていければ良いのではないかなと思います。どうぞ樋口委員。

樋口稔夫委員

私はいろいろ協働事業をやった立場で申し上げますと、まず結構地域課題というのは多いんですよね、いっぱいあるんですよ。そういうものを多くの人ですぐ共有できないところにいろいろ問題ありまして、やはりそういう意識の高い人をまずつくって、そういう方で少し盛り上げてそれから呼びかけると、かなりの共感を得た事業ができるという事態が多いと思うんです、どこでも。

それを私たちからみますとね、やはり市のサポートする立場というのが結構大きな要素もってまして、いろいろな共通の認識をもった部門がありますと、そこでいろいろ今までできなかったことが市民の力でできるということで皆が理解してくれますとね、市でも本気になって、これはこの地区でやっぱりやると相当効果出るねというのがよく分かると思うんですよ。

そういうことを是非事例がいっぱいあるので、そういうものを少し皆さんに分かってもらう機会を多く持つというのが最初だと思うんですね。それをまねるんじゃなく、自分なりの地域に合わせて活動していただくとか、いろいろやってもらうというのが一番間違いないやり方だし、早く立ち上がるということになりそうですね。

私、市民力って、皆さん市民力ってどういう理解しているかわかりませんが、やはりその中核なる方がいないとなかなか立ち上がらないんですよ。同じ手があがりまして、テーマをこう少し熱っぽくこうやっていく連中が何人いるかで、かなりすごい事業ができるという感じになると思うんですね。そういうちょっと過去の経験からの話で感じたことです。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

中核となる人材、それから事例に学ぶというお話だったと思います。先生何か。

水野紀子部会長代行

特に新しいことを言うわけではないんですが、先程林さん、宮本さんのご報告を聞いての感動もまだ余韻があるんですけども。ちょっと私の本業の方で、各地方自治体の児童虐待についての調査をした報告を、先週研究会で聞いてきたばかりなんですけれども、そのときの内容は、結局はそのうまくいっているところは、現状ひどいんですけども、なぜかその中でもうまくいっているところは、人の力なんですね。それもその大勢の力というよりも、比較的限られた中核になっている人が本気で一所懸命やってくだと、その周囲にこうなんか力が、北九州とかある程度規模が限られた街なんですけど、規模が限られた街だと、その人の力というのがものすごく働いて、そしてその人がいるお陰で全体の広さがぐっと良くなるみたいなことがあるんですね。

先程から比較的、プロジェクトといいますか、いわゆるお祭り型の提案があるように思ったんですけども、そうではなくて、もうちょっと本当に先程委員がおっしゃったように、たくさん問題を我々の生活の中で抱えていますので、そこについても市民力を使って助けていただくという仕組みがつかれると良いなと思いました。

今までどうしても市民の意見を聴くということになりますと、市民の意見はいわば行政への要求を承るということになってしまっています。それももちろん大切なことではあるんですけども、先程宮本さん、林さんのご報告を伺っていて、本当に自分が主体的にどう、何ができてどのようにするのかということを考えながら動いていただく方々、市民の方々のいわゆるお知恵を拝借するところから始まって、そしてその次はその方々の力を拝借するところへ展開していけると全然違うだろうと思いました。

まずお知恵を拝借するところから始まるにしても、力を拝借するときに、やはり市民ですので、本業ではありませんからバーンアウトされてしまったり、本来のお仕事や勉強に差し支えがあってはいけないわけですけども、そういうものと両立しながら力を拝借できるような仕組みというのを、日常の中にも組み込めていけると全然違うんだろうなと思いました。

小松洋吉部会長

なるほどね。

内田幸雄委員

一つよろしいですか。

小松洋吉部会長

どうぞ。

内田幸雄委員

今まさに水野先生おっしゃったことを私も言いたいなと思っていました。説明ありましたように、技法としてああいう形でファシリテーターのお手伝いをさせてもらいながら、グループワークをしていって、いろいろなものを出していくと、そういったものはもう僕ら日常的に当たり前のこととしてやっていることを市の主催でこういう形でできたということは、まずすごいんだということ自体については良いことだと思うんですよ。

そういったものを水野先生今おっしゃったように、単なる要望とか請願の場としての懇談会ではなくて、ああいった形でつくっていくのは、そのとおりだと思います。

そこで当日も私言いましたけど。そういった形で出てきたものを、今度、どう行政側で保障するかというような話も、ちょっと最後にまとめさせてもらいましたけれども。聞きっぱなしで良かったねと流すのではなく、次のステップ。針生委員のさっきおっしゃっていた、次どう行っていくか。大村先生の話も同じですけども、そこを市民が市民力として自動的に動いている一つの形がNPOだろうと。また、法人格こそとらないんですけども、例えば単位PTAの力なんていうのも。実際そういったところがたくさんあるわけですし、例えばそういったものを、動いているものと行政がそこで引き出したものを今度どうつないでいくかということが、非常に重要な課題だろうと思いますので、是非そこら辺の知恵を出していただいて動かしていただけたらなと思います。

小松洋吉部会長

車の両輪のような感じですね。大変これも市民力を市民が育てると同時に、そういう仕組み自身が市民力を育てていくことがあると思います。どうぞ。

針生英一委員

次の仕掛けという話が今、内田委員からありましたですけども、今の発表もそうなんですけれども、大変美しくきれいにまとまっているんですね。ただ、我々まちづくりの現場にいるときれいごとでは動かない、性善説では動かないという場面がたくさんあって。我々もいろいろなトライをしながらもいっぱいエラーもしていると、そういうやはり失敗談というか失敗の経験というのも、もうちょっと共有した方が良いのかなと。ただ、やはり失敗するから腑に落ちるということもあって、表面だけ失敗談だけ聞かされても、やはりなかなか次にいかないということもあるんですけど。もうちょっときれいごとだけではなくて、もう少し踏み込んだものが第二ステップでないと。何か頭の中だけで考えてこういうことだとそれでは進まないというのがあるので、そういうところも逆に見せていく必要があるのかなという感じはしました。

ですから、失敗データベースではないですけども、何かそういうこともね。動かない理由とかそういったことも含めて、やはり市民の中で共有していく仕組みが必要なのかなというのはちょっと感じました。

小松洋吉部会長

特に経営戦略なんかを考えると、失敗のプロセスみたいなことは、学ぶという
が大変大きなものになりますね。ありがとうございました。

まだ、いろいろあるかと思いますが、時間もありますので、とりあえず次の報告に
移らせていただきたいと思います。また時間ありましたら、後ほどご意見をいただきた
いと思います。

次は中間案に対する意見募集の取組についてであります。これは資料3ですか。説
明の程、お願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは資料1と資料3に従いまして、ご説明をさせていただきます。ここの中にも
市民力が出てまいりますので、またご意見あれば是非伺わせさせていただければと思いま
す。

資料1の2のところでございますが、中間案に対します意見募集の取組の状況でござ
います。この間パブリックコメント、各界各層・有識者調査、そして現在も実施してお
りますが区民意見交換会を行ってございます。パブリックコメントにつきましては、残
念ながらやや低調というか、件数・人数が少ない感じで今終わっております。22日現在
ですが、大体ホームページ等でありますのでお分かりかなと思うのですが、40人・団体
から147件のご意見がございました。

各界各層・有識者調査につきましては、465人・団体の皆様にお送りさせていただきま
して、こちらは72人・団体の皆様から263件のご回答をいただいております。こちらは一
件当たりが数枚のような、非常に膨大な回答も多くございまして、今分析して取りまと
めをしているところでございます。

区民意見交換会につきましては、全12回で実施しております。9月から10月頭につ
けて一巡目、こちらは平日の夜間に行ったものでございますが、こちらは平均20人程
度のご参加ということで、やはり夜間の開催ということで少なかったのかなと思ってご
ざいます。先週土曜日から二巡目を開催いたしましたけれども、こちらは今回は土日あ
るいは祝日の日中に開催するということで、土曜日に泉区、青葉区で実施いたしました
が、共に50名程度の市民の皆様にお越しいただきまして、予定時間をオーバーしながら
たくさんご意見をいただいております。これらにつきましては、最終的に取りまとめを
した上で、12月中に総合計画への反映の方向性について取りまとめたものをホームペ
ージ等で発表していきたいと思っております。来月に関します審議会等で、その詳細
の内容、あるいは対応の方向性についてご報告をさせていただきたいと思っているところ
でございます。

資料3でございますが、今段階でいただいておりますものを抜粋して、こちらの方で
便宜的に分類して整理したものでございます。こういったご意見が寄せられているか
ということでご用意をさせていただきました。中には当然個別のご要望とか、陳情に近い
ようなものも多くございますけれども、全体的には非常に内容について鋭い指摘とい
いますか、そういったものたくさんいただいているなと思って拝見しております。中間
案全体につきまして、多かったご意見でございますけれども、基本構想から基本計画の

つながりですとか、重点プログラム等へ至る関係性が分かりにくい、論理性をしっかりと出すべきであるというようなご意見がございます。

基本構想、市民力の部分でございますけれども、市民力を強調しているのは良いというご意見から、市民力といわれても市民の皆さんによく伝わらないんじゃないかというご意見までいろいろいただいているところでございます。

基本計画でございますが、総論の部分、やはり総論の記載内容が薄いので基本構想からの論理構造が分かりにくいのではないかとといったご指摘をいただいております。時代認識とか課題、構成などをしっかり書き込むことで全体のつながりを良くするべきであるというご意見をいただきました。

第2章の重点的な取り組み、四つ都市像に合わせて、学び、支え合い、都市デザイン、賑わい・活力づくりとあげたところでございます。この四つの方向性につきましては、都市像とリンクさせたいという、こちらの意図が伝わったかと思いますが、おおむね方向性は理解するといったご意見多くいただきましたが、個別の内容についてはいろいろな注文があるところでございます。学びの部分では非常に重要な要素ですが、これを市民力の発揮であるとか、支え合いにいかにつなげていくかという視点で、もう少し書き込みを進めるべきだというようなご意見がございます。支え合いではやはり子育ての部分、高齢化に伴う介護の部分、そこについてご意見を多くいただいております。都市デザインにつきましては、一方では集約型の都市構造へということが必要だというご意見がある一方で、都市軸への集約ということを出しておりますけれども、当然そうではない地域が出てくるので、そういう地域についていかに生活の利便性を維持していくかということを中心すべきであるという、ある意味どちらも重要な、と言いますか、どのようにしていくかを両方対応してほしいというようなご意見をいただいております。全体的に東北と、その中枢都市仙台の関係性についてもう少し記載が必要ではないかといったようなご意見もいただいているところでございます。

経営方針というところで、地域政策の重視につきましては住民自治の観点、またそこが本当は市民力の発揮の場なんだというようなご意見をいただいております。裏面のところ、資料3の裏面でございますけれども、市民力につきましては、先程のご意見と全く同じような形で、市役所がどういった役割を果たしていくべきか、市民力を育成するためのコストをしっかりと用意すべきだといったようなご意見をいただいております。また、自己改革というところで選択と集中でありますとか、行財政改革の推進についていろいろなご意見をいただいているところでございます。

分野別計画につきましては本当に個別のところ、各市民の皆様のご関心の分野に応じて、本当に様々なご意見をいただいております。宮城県沖地震等、防災の対策を強化すべきだなど、ここに書いてあるもの以外にも本当にたくさんのご意見をいただいております。

第4章の区別計画でございますが、今回充実を図ったということでお知らせしておりますので、充実を図ったということに関しては肯定的なご意見をいただいているかと存じます。ただ、区ごとの独自性というのは必要だけれども、表現がもう少し統一されるべきではないかとか、各区の地域性をもう少し出すべきではないかといったようなご意

見もいただいているところでございます。

最後、推進でございますが、やはり目標管理、評価の仕組みをしっかりとつくっていくべきだというようなご意見をいただいているところでございます。

今回、便宜上の整理につきまして発表させていただきましたが、次回を目指しまして取りまとめをさせていただきたいと思います。以上でございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

ただ今のは、パブリックコメント、有識者等と皆さんからいただいた意見の大方をご説明いただきました。

ここからは、この意見募集の取組をどうしていったらいいのか。資料3に基づいて皆さんからご意見をいただければいいのではないかなと思っております。

ちょっと確認ですが、私がいただいた資料3と、今日の資料3はちょっと違ってはいますが、皆さんにお送りしたのも。

梅内総合計画課長

今回資料3につきまして、意見募集の途中段階で次々に入れていったものなど日々更新しておりましたので、部会長に差し上げた段階からまたちょっと場所も変わっておりまして、大変恐縮しております。

小松洋吉部会長

そうですか。分かりました。すみません。

梅内総合計画課長

とんでもありません。ある程度で固めれば良かったんですけども。

それで先程申しそびれましたけれども、こういったご意見をいただいているということで、全庁的にも関係部署の方にも各々の点についてこういったご意見があるということをお知らせしながら、現在中間案の見直しの作業に入っております。審議会の方では是非こういったご意見のこういった点にというようなところをいただきまして、それに併せて見直しの作業を進めてまいりたいと考えております。

よろしくお願いいたします。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

結構、総論から区別のところまで盛りだくさんですけども。いただいた意見の中には、この委員会、審議会が出されていたなと思われるものも含まれております。あるいは我々が気付かなかったところもご指摘いただいているんだろうと思います。そのいただいた一つ一つのこれら意見に、できる限りきめ細かく丁寧にこたえていかなければいけないんだろうなと思います。

それから今日ご参加の委員の皆さんからも、お気付きの点等がありましたら、是非ご意見をお伺いしたいと思います。

これ分けなくて、全部一括で良いですね。どこからでも結構です。中間案全体につきましてご意見をいただければありがたいと思います。

どうぞ、柳生委員。柳生委員は何か時間があるそうですから、柳生委員から。

柳生聡子委員

手短に、では三点ほどお願いします。

まず、基本構想の市民力のところなんです、市民力がよく分からないですとか、必要性、重要性を導く記載にというふうに市民の方からご意見があったように、私もちょっとこの中間案の概要版を見ていて、今回の基本構想は市民力がすごくキーワードになっているので、もっと前面に押し出す記述でもいいのかなと思ひまして、例えば2番のところでも「これから必要なのは市民力」で鍵括弧をつけるとか、やはり市民力をもうちょっと浮き立たせるような記述の仕方で、さらにはなぜ必要なのかというのもしやはりどこかに記載があった方がいいのかなと思ひました。なぜ今市民力なのかということの答えがほしいなと思ひました。

それから、基本計画の第1章の総論の記載が薄いということでしたけれども、ここにやはり、今後人口がこうなるんだから、だからこそ市民力が必要なんだよと、ここでも市民力の位置づけみたいなのがあっても良いのかなと思ひました。

三点目は、もうちょっと重点項目を分かりやすくした方が良いのかなと思ひました。四つの重点政策がありまして、例えば2番の少子高齢時代に支え合う社会づくり、どの都市の総合計画でもありがちでいつの時代の総合計画でもよくみるフレーズなので、例えば「子育てするなら仙台で宣言」とか「子育てしたいまちナンバーワンプロジェクト始めます」とか、なんかそういうちょっとインパクトのある本気度を印象付けるような、何かそういった受け手に伝えるということをもう少し意識したその文章であったり、タイトルであったり、キャッチコピーであったりというのがほしいかなと思ひました。マスコミにいた人間としては、やはり受け手にインパクトを与えるというのはすごく気にするところで、どうやって振り向いてもらうかということが非常に重要なんですね。これだけ市民力のことで良い意見が出ているのに、何というかほかの項目に紛れてしまっているような気がする、何か仙台らしさが浮き立つような、今回の基本構想らしさ計画らしさが浮き立つようなものがちりばめられていると、すごく魅力的にもっとなるのではないかなと思ひました。

補足ですけれども、先程の宮本さんと林さんの発表を聞いていて、やはり市民力を今回前面に押し出すことの方角は間違っていないなということを私は確認したいんですよね。言いたいだけでもって行き場がない、けど何かまちづくりをこうしたいとかこうあったら良いのになというのをみんな持っていて、こんなにもすばらしい意見を皆さんがお持ちなのにもったいないなと思ひたので、それをどんどん発揮していく計画なんだよという、そんなことを感じました。

小松洋吉部会長

なるほどね。はい、大変ありがとうございました。

中身的には今までも議論をしてきたことが多かったと思うんですけども、これもどういうふうに市民の皆さんに伝えていくかということで、大变的確な指摘をいただいたと思います。

何か全部を取りまとめる大村先生、あるいは事務局の方でご意見や答えることがありましたら。インパクトのある表現というのは確かに市民にとっては必要なことでしょうし。

梅内総合計画課長

全体的に内部でも同様の考えがありまして、出し方というのは非常に難しいので、いずれ皆様のお知恵もいただければと思っておるんですが、やはり内部なりに少し、キャッチコピーというふうに先程柳生委員がおっしゃいましたけれども、そういったもの、分かりやすいような、今回の計画のキーポイントを分かりやすく市民の皆様にお伝えできるような、そういったフレーズを何かぼんと出していくことも重要なのではないかと考えておりまして、うまくできるかというところがあるんですが、今知恵を絞っているところでございます。いずれご相談できれば、そういうレベルのものができればいいなと思って今内部で検討しております。是非お知恵をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

小松洋吉部会長

そうですね、事務局だけに任せるのではなくて、我々もできたら。今やはり柳生委員からいただいた、非常にインパクトのある分かりやすい表現というのは大変大事なことだろうと思います。分かりやすいということは大切なことだろうと思います。一応、そのところを認識していただきたいと思います。

ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

佐竹久美子委員

はい。

小松洋吉部会長

どうぞ、先生。

佐竹久美子委員

都市のデザインの部分の一番下にあります「都市軸にない地域の利便性の向上も大切」というところについて。実は宮城野区の都市軸から全く外れてしまうところにおりまして、ＪＲ沿線の新田、岩切辺りはすごい乗降率が高いところで、やはりその辺もこれからの中では是非力を入れてほしい。今の状態は良いわけですからそこからまちづくりをしてほしいなという希望がありまして、ここもやはり大切なものとして

取り入れていってほしいなと思います。

後、地域話題ばかりになってしまいますが、仙台港なんです、これは県のかかわりが非常に強いんでしょうけれども、やはり港の魅力を都市の魅力としてももう少し出せるような、その辺も少し何かうたえないものかなんて思うんですけれども。いかがでしょうか、その辺。

小松洋吉部会長

何か、今現在ありましたら。

梅内総合計画課長

二つのご指摘がございました。

区民意見交換会でも、土曜日の区民意見交換会、樋口委員にもご出席いただきましてありがとうございました、泉区でも各地域で同様のお話がございました。

例えば将監のような大規模な団地でもあっても、地元の買物の重要な役割を果たしていた商店が閉鎖されたりして高齢化が進んできている。その中で、地域の足となるバスでありますとか、買物あるいは医療機関への交通の便といった、そういう生活利便性といえますか、そういうものをしっかりセーフティネット的に維持してほしいというご意見は各地区でいただいております。

おっしゃるとおり、この部分をどうやってやりながら、あるいは都市軸というのはある意味仙台の中枢性といえますか、そういったものを高めるための基盤の整備を都市軸にということでございまして、先程おっしゃったような岩切や新田は人口の集中が非常に高い地域でございますし、そういった地区とかあるいは従来からの団地の方で、先程のご要望のあるようなところでどうやってこたえていくかというのも大きなテーマでございます。両方を同時にどこまでできるかということでは限りある財源の中で難しい課題なんですけれども、やはり両方重要なテーマだと思っております。

都市の中枢性のある基盤の整備というところを、ちょっと都市軸を強調し過ぎているのかなと思っておりまして、そうではない地域のセーフティネット的な、先程のような取組、地域政策と言っているのも、そういうところに地域に皆さんとお話をしながらどうしていくかということが重要だという考えで入れておるんですけれども、そういう点とのバランスですとか、おっしゃったところに市民の皆様に伝わるような表現が必要だなと思っております。

仙台港の魅力づくりのところでございます。仙台港自体は非常にコンテナ等の物流量も増えておりまして、利用度が上がっております。また開発が進んでおりますので、インターチェンジ等も今取り組んでおりますが、この部分の魅力づくりには内部でも、区別計画についても宮城野区で取り組んでおりますけれども、そこのところもどういったことが可能なのか、そちらの方も県との関係あるいは財源の関係で難しいところなんですけれども、取り組んでいく必要があると思っております。

小松洋吉部会長

問題意識としてはお持ちだということです。

樋口稔夫委員

ちょっとよろしいですか。関連があるんですよ、この辺。

小松洋吉部会長

どうぞ、樋口委員。

樋口稔夫委員

私もさっきご紹介受けたように、ちょうど区民の生活をどうするかということで、皆さんからお話を聞く場と一緒に行っていたんですけど。その中で私どもは、我田引水の話をするわけではなく、泉というのはちょっと特徴的な地区でございまして、前は副都心という表現を使っていたんですね。南部副都心、北部副都心、多極型の都市づくりをするという方向性でスタートしたわけですが。

泉はちょうど富谷とか大和町とか、今いろいろ大きなものがいっぱい出てきておりまして、そういう中でいうと泉という自分の地区だけではなくて、もっと広い地域に利益を与える都市構想にないと駄目なわけですが、ただあそこは副都心という都心的な扱いの一部という感じになりますと結構いろいろな整備が必要なんですけれども、交通結節機能しか持っていないんです。後、スーパーみたいなちょっと毛の生えたデパートみたいなものもありますけど。それも一つ、何か閉鎖するという話になっていますし。

後、やはり一番問題なのは、泉が余力を出さないとかほかの方にみんな持っていかれちゃうんですね。今、富谷の方なんか商業施設がすごいんです。ということで、泉は黙っているともう沈下してしまうんです。今のまま改善しないと、停滞しちゃってもっとひどくなるということでございまして、仙台市として、もっとてこ入れしないと駄目だというのが泉の人たちの意見、この間強く出ていたと思います。

ということで、実際泉は、21万でございまして、それプラス富谷とか合わせますと大体30万ぐらいの方々に影響を与える地区なんですね。その辺をよく考えながら地域計画も、やはりきちんとしないと駄目かなと思います。今宮城野区から出ましたけれども、将来性をどうみるかによっててこ入れしないと、沈滞というかかえって衰退しているんですよね。そういう傾向がありますので、その辺を少し地域計画をつくる上で検討すべきかなと、そう思っていますけれども。

小松洋吉部会長

区別の計画、次のところとも関連してくると思うんですけども、ありがとうございました。

どうぞ、お気付きの点、どうぞ。針生委員。

針生英一委員

今の商店街の話もちょうと出たので。我々も実は、私は宮町の地域に住んでおりまし

て、今地域の活動なんかでお宮町の地域情報プロジェクトというのを始めているんですけども、やはり行政が商店街を支えるといっても、なかなか限界がありますよね。そこで行政が介入するわけでもないの、やはり基本的には地域の人たちに足を運んでもらってそこで買って応援してもらうという、それも市民力だと思うんですね。

宮町も、幸町の方にいくと大規模な商業施設ができていますので、どうしてもそちらに顧客を取られがちになると。みんな便利だからそっちの方に行くわけですよね。それで、もっと地元の商店街が衰退してくるということを、今度の泉のイトーヨーカドーが撤退するという話もありますけれども、採算が取れなくなると大手はすぐ撤退すると。その前にやはり地元の商店も潰していくということもあるんで。我々もやはり地元の店で買って応援するというのを、市民力としてつくっていかないと。行政で全部それを支えるというのなかなかやはり難しいので、魅力ある個店をやはり応援するとか、そういうのを育てるとか、その集合体がやはり商店街になってくると思うので、我々市民もそこで買って応援をしていくという形が必要なのかなというのを。

大村虔一委員

よろしいですか。

小松洋吉部会長

どうぞ、大村先生。

大村虔一委員

今の樋口委員のお話についてですが、前回の総合計画策定のときに、副都心という言葉はどうするかが相当大的なテーマになりました。その当時から皆余り言わなかったけれども人口減少の傾向はもう見えていたわけで、その中で都心をしっかり維持することが大きなテーマだということになりました。当時も人口がどんどん伸びるように思っている方は、副都心を育てたいと言われましたが、副都心と言わないで、一つの拠点というぐらいにして都心部を維持することにしました。都心を一つにしていた方が良かったろうといったようなニュアンスが多くあって、そのときから泉を副都心とする考えは影が薄くなっていったと思うんです。

ただ10年前はまだ副都心と言っている方々もいて。そして長町のこともあって。そんな中で長町も副都心と言わないようになっていった。そんな流れが10年ぐらい前からあった。その中で泉は、私はかなり成功している部類にあると思うんですが、それを更にどう支えるか。

最初に地下鉄をつくったときに、思っていた以上に富谷などに店が出て行った。これが次の時代にどうなるかを見据えた上で、議論をしなければいけないと思いました。ちょっと感想でございます。

小松洋吉部会長

なるほどね。そういう流れがあったと。

はい、どうぞ。

樋口稔夫委員

先生の話は市長もちょうどふれましてね。やはりそういうふうに副都心の機能についてのお話あったんですが。その当時と変わっているのは富谷があんなに急に伸びるかどうかって推定。

大村虔一委員

いや、伸びると思っていました。

樋口稔夫委員

ゼロではないでしょうけど、やはり今セントラルが来たりして、伸びが極端ですからね。その中で逆に泉というところがすごく空洞化してしまっていて来ているんですよ。だから黙って見ていると、もう泉というところはただの結節点だけになってしまうと、そういう心配が多いんですね。だから、そこをもう少し。長町は5キロぐらいしかないけど、泉は10キロありますからね、距離的な問題もありますし。だから、それはちょっと今後検討に値することかなということで考えています。

小松洋吉部会長

空洞化はね、話が出ましたですけども。

先生どうぞ。

大村虔一委員

都心部だけではなくて、商店やその辺りの人口自体が少しずつ落ちてきていますよね。中央周辺はマンションで少し元気になっているけど、この先どうなるか分かりません。20世紀の100年ぐらいにわーっと膨れたところが、こうしぼんでくる状況の中でどういうふうにするのか。

樋口稔夫委員

ただ、あの地区は増えていますからね、全体として。富谷とか影響力のある地域はどんどん増えているんですよ。だから、仙台市分は減っているけど、泉はまだ減っているところまでいってはいませんからね。全体としてまだ増えていますから。それに富谷とか大和町とかあっちの影響力のある地域、泉としても影響力のある地域が増えているんですよ。ということは全体でまだ伸びているというのがあるんですよ。仙台市全体から見ると伸び率高いと思うんですよ。

大村虔一委員

人口的にいうと仙台と隣接する地区は比較的伸びていますが、もうだんだん頭打ちになっているんですね。

樋口稔夫委員

でもないのではないかな。富谷はまだどんどん伸びていますよ。

大村虔一委員

富谷にはまだまだ大きな計画がこういっぱいあるんですけど、もう手付かずになっていますし。

樋口稔夫委員

今やっている最中ですし。

大村虔一委員

いやいや、やろうとしてやれない部分が相当あります。計画はあるけれども動かなくなってしまうている。

そういうのを前提にしながら、大規模店舗ができたけれども、それが動かなくなるとまた少し違ってきてしまうと思うんです。その辺は長期的に総合的にみる必要があるだろうと思いますけれども。

樋口稔夫委員

やはり都市としての人口の多くいるところについては、特別な考慮しないと問題になると思うんですよね。

大村虔一委員

そうですね。

樋口稔夫委員

やはりそれだけ市民のあれが大きいわけですから。

大村虔一委員

ただ、本当にすごい勢いでいろいろなところで減ってくることが予想されますから。

小松洋吉部会長

ただ今の議論は都市づくり部会とも。

大村虔一委員

ここの話ではないんですけれどもね。

小松洋吉部会長

いやいや関係していますよ。どちらか区別はしなくても良いとは思いますが、関係

することですので。

是非向こうの部会でも議論をお願いできれば良いのではないかと思います。あの無視するわけじゃありませんけれども、一つ。

樋口稔夫委員

我々も別の立場でいろいろお話をして。

小松洋吉部会長

いやいや大事な視点、指摘と思います。

水野紀子部会長代行

では、こちらの部会の話に強引に持って行って。

大村虔一委員

何度も手をあげて良いですか。こちらの部会に近い話なんですけど。

僕は昔、世田谷に居て、35年ぐらい前から市民活動をやっていて、その経緯で世田谷で子育てする時期を過ごしたんです。そのときに市民と行政との交流とか市民同士の交流とかというのをやって、大きく三つの時期が10年ぐらいの中であったような気がするんです。

最初は、ちょっと記憶が定かではないんだけど、30年ぐらい前にまちづくり協議会を始めました。最初は世田谷区の企画部が発想したんだけど、区の外側に民間の協議会をつくり、そこでいろいろな活動を始めた。主な活動は二つで、一つは交流会で、世田谷で面白い活動している、例えば防災の活動をしているある町内会だとかを1年間に一回の会で二つぐらいずつ事例紹介をしてもらい、どういうところが良くなっているか、どういうところに問題があるかを、区のホールに人がいっぱい集まって交流会をするのを10年以上続けたと思います。

後もう一つは、世田谷区長始め各部局長がそろって、区民の意見を述べる会をした。そのときはその協議会のメンバーが司会をし、行政へのおねだり発言は防止する。今日は行政におねだりする会じゃないんで、その話はまた別途各部局でやってくださいと言って切るのです。提案を区民側からしてもらおうのです。この二つをやったんです。それが最初。

それから、10年ぐらいたってミニワークショップというのがあった。これはあっちこっちでことが起きるごとに企画部が中心となって市民を巻き込んだワークショップを開くんです。例えば、ゴミ処理場に高い煙突が建つと、そこで煙突のデザインのワークショップをやる。みんな反物の紙筒みたいなものに色を塗って、小学生からみんなで応募して、その優勝案に基づいて色を塗られる。そんなことを十数回やっていると思いますが、そういうことで直接市民側から手を挙げさせる。それから三つ目は、林泰義氏たちがやったまちづくりファンドづくりというのがあった。多分その三つが区民力を育てるためにやったプロジェクトだと思います。

私たちも市民力というときには、それを乗り越える新しい仕組みをしっかりと計画の中に盛り込む必要があるのではないかと思います。考え方として市民力というのは相当いろいろなレベルにきていると思いますけど。具体的にこれとこれとこれをやるという話がほしいという感じがします。

小松洋吉部会長

具体的な計画を盛り込んだら良いんじゃないかというご発言ですね。

はい、どうぞ。

庭野賀津子委員

市民力の件で。

先程のフィールドCafeや市民フォーラムのご報告でも、やはり市民力が大事だということを改めて市民の皆さんが認識する良いきっかけになったと思いますし、またこの審議会あるいは起草委員会が始まった当初から、市民力が大事だということはずっと議論されてきておりますので。本当に市民力は大事ですし、またこれを市民力というものを、この基本構想の大事な柱として打ち立てていくということは大変素晴らしいことだと思っております。仙台に誇れることに今後なっていくと思うんですけども。

ここで市民の意見でも市民力がよく分からないということも出てきておりますし、改めて市民力というものはどういったものかということを確認しておく必要があるのではないかと考えています。

1月答申ということでもう余り時間もないので、ここでそろそろ集約の方向にもっていかなくてはいけないのではと思っているんですけども。

昨年、この審議会や起草委員会が立ち上がった頃には、「行動する市民力」という言葉がキャッチフレーズとして挙がっていたわけですが。その「行動する」という部分が外れた分、市民力が意味するところは広がったのかなとも思ってはいたんですけども。やはり未だに市民力というのは、例えば光のページェントなりイベントを起こす力であったり、あるいはかつてあったようなスパイクタイヤ廃止の運動のような、そういった社会問題の解決に向けた活動であったり何かしらのアクションを起こすということが、イコール市民力いうとらえ方になりがちなかなと。何かしらのNPOなどの団体、グループに所属して、こう行動を起こすということが市民力なのかなととらえられると、逆に余りそのようにエネルギーに実際の行動は起こせないという立場の方にとっては、関係のないととらえられてしまうおそれがあるのではないかなと思うんですね。

やはり市民力というのは、市民が主体的、能動的にこうまちづくりにかかわっていくということであり、いわば市民による市民のためのまちづくりとも言えるわけですので、必ずしもアクションを起こす力だけではなく、自然について考える、あるいは地域のあり方について考えていくという力そのものも市民力に含まれると思うんですけども。

その辺り改めて何をもって市民力とするのかということはある程度の共通認識を持っておいた方が良いのか、あるいは逆に自由度を持たせて様々な解釈、様々なイメージが持てるようにしておいた方が良いのか、その辺り皆さんのご意見を伺えればと思ってお

ります。

小松洋吉部会長

なるほどね、大変今回の計画のベーシックなところになると思います。どうぞ。

菊地昭一委員

市民力という話があったんですけど、実は今の仙台市の中核の計画にもある地下鉄東西線の駅周辺のまちづくりということで、まちづくり協議会が立ち上がったたり、立ち上がらなかったり。今これはちょうど当局の人もいるので耳が痛いかもしれませんが、仙台市の中で東西線の沿線のまちづくりというのは、ものすごい一大プロジェクトで重要なんですけど、その中に市民が参加をしてどのような議論をしているかというのは、実際まちづくり協議会自体も立ち上がっていない駅の周辺があるんですね。

さっき市民力と言ったときに、やはり一定の行政の働き掛けがないと、市民がどういうふうになるか。私が仕掛けて二箇所ぐらいはこれからの当局の取組をみて、とにかくまちづくりはあなたたちのまちづくりだから、この駅の周辺をどうしたいのという意見を交換するような仕掛けはしているんですけども。いわゆるさっきの意識の違いとももちろん全然違うんですけども、その辺をどういうふうにするか、やはり当局側としてこれだけ大きなプロジェクトの中での駅周辺のまちづくりを仕掛けていくかというのも、ものすごく重要です。そういう意味での市民力。今回議会でも市民力というのを市長に質問させていただいて、答弁はいただいたんですけども、むしろ具体的にこうだというよりはファジーな部分の市民力というふうには感じましたので、いろいろなところで市民力というのはきっと出てくるんだろうなと思うんですけども。ですから、そういう意味では当然市民から出てくるのが市民力の形で、先程お二人の方が意見を発表しましたけれども、ああいうすばらしい市民の方だけいっぱいいたらそれはもうすばらしいまちづくりのパフォーマンスができるんでしょうけれども、現実はどうではないと思うんですね。その中で市の当局がどのように仕掛けていくかというのが大変重要だと思うので、その辺は市民力の中では大きなキーワードではないかなとは思っています。

水野紀子部会長代行

先程、庭野委員がおっしゃったことなんですけれども。私も先程、大村委員が言われたように、今までの高度成長を前提としたパラダイムというのは全部崩れてしまう。それも直視しなければいけないだろうと思います。

その地域に、先程地域計画でてこ入れという言葉がありましたけれども、なんか今までのように、何かをてこ入れしてつくって集客してという発想でまちを良くしていくというのは高度成長期の発想で、それはもう。今我々の社会はどんどんどんどん縮小してきている。それを直視しないといけないと思うのです。

ただ、それが情けないと思うのはやはりまだ高度成長期の発想であって、これだけ豊かになって成熟した我々の社会は、大人の落ち着きを持って幸福に縮小していくことっていうのも考えられるだろうと思います。ですが、どうやって幸福に縮小していくかと

いうと、これはやはりご近所の支え合いとか温かいまちをつくっていくことなんだろうなと思っておりまして。今までの個人が独立してそして個別にバラバラになっていって、自由がその分追求できますけれども、そして、どんどん生産性を上げて消費社会へということに我々の社会はなっていっていただけですけども。昔のようなその村落共同体に戻れというのではなくて、それをもっと民主的で温かくて支え合うような社会にどうやってつくり変えていくことができるんだろうかというのをずっと考えています。

ご近所の力、ネットワークというのは、これは人間が人間の生存を支えるときにはただあげるだけじゃなくて、自分が支えてあげることで自分の生きがいとか幸福というのを得ることができるわけで。そういう温かい社会を、老人が介護に困るといったときにそれは直ちに近所で誰かがそういうサービスをしてあげられるとか、困った人がいたときには周囲がみているとか、子供が独りで外を遊んでいても誰かの目が温かくみているというような、そういう社会をどうやってもう一度、我々の社会を昔の村落共同体の良いところを再構築するような社会につくり上げていくことができるのかというのを考えているんです。

そして、仙台市というのは、そういう力のある、持てるような規模であり、それから伝統のあるまちであるのではないかと考えております。そのネットワークをどうやってつくっていくかなんですが。これは個人情報保護法みたいな法でますます市民が分断されているわけですけども、今はネットワークというかコンピュータのようなツールもありますし、自分の方から情報をあげていったら市民の情報も上手につくり上げるということもできるだろうと思うんです。そして、そういうネットワークでこういう動きがあるみたいなことをどうやって仕組んでいけば良いのか。ちょっと今すぐには答えは出ませんが、そういう市民からの発信を非常にたやすく集約できるような科学の進歩がありますから、そういうものを利用してそのネットワークコンピュータにアクセスできないようなご老人にも必要なものはあつという間に周囲から届けられるというようなものも、草の根からつくり上げていくといったこともできるだろうと思う気がしております。

我々の社会を、豊かで成熟したそしてみんなが静かに幸福に暮らせる共生のまちに切り替えていくことができれば、大変暮らしやすいまちになるだろうと。そしてそれには、まさに市民力の草の根の力をいただくしかないだろうという気がしております。

小松洋吉部会長

地域の形というか、幸福の地域づくりのような、非常に大切なご発言をいただいたと思います。ここまで話がきますと時間の中ではなかなか難しゅうございますので、このことを是非、全体の審議会の共通認識というか課題としてまたご議論いただければ良いと思います。

その市民力の、庭野先生がおっしゃいましたが、それを分解するといろいろな形なんだなということを改めて勉強いたしました。先生の支える社会も、私も分かち合い社会と呼んでいるんですが、大体同じような意味合いで、大変都市の形というか市民社会の形で大変勉強になりました。ここではこれ以上は時間もありますので、今後の全体審議会でもご協議いただければ良いのではないかと思います。

一応時間も限られておりますので、まだご意見等あると思いますけれども、大変多方面の貴重なご意見をいただいたと思います。一応時間の関係上、議事の１と２を終わらせていただきまして、次の議題に進みたいと思います。

(3) 区別計画について

小松洋吉部会長

次は区別計画についてでございます。これは区が策定の中心ということでありまして、今まで私どもの審議の時間が必ずしも十分でなかったところでありまして。この時間は少しだけでも皆さんにご協議いただければありがたいかと思ひます。

それでは、資料４に基づきまして、事務局から説明をお願いいたします。

梅内総合計画課長

資料４に区別計画を今回つくる際、企画調整局と各区の方で協議しながらこういった方向で進めるかというのを検討してまいりまして、ここに記載しましたような内容で中間案をつくってお示ししようということで、まとまってきたものでございます。

区ごとの総論、区の将来ビジョン、主な施策の方向、圏域を分けまして、圏域ごとの基本方向というのを書き出して、今回中間案に掲載したものでございます。

昨日の部会でもご意見ありましたけれども、先程資料３でもありました全体でのつながりの部分で、やはり区別計画をなぜ今回重視するのかとか区別計画と全体計画の関係性といったような総論の部分やはり区別計画の冒頭でもっと記載しておかないと、その位置づけを含めて分かりにくいのではないかなというようなご意見を昨日もいただいております。

また、先程お話もありましたけれども、今区別の意見交換会をしておりますと、各区の地域の皆さんから圏域にかかわる重要な課題のご指摘を多くいただいております、区の皆さんと一緒に伺いながらこれからのブラッシュアップについて考えているところでございます。

主な施策の基本方向の部分については、一応各区の圏域ごとでとりまとまっておりますので、この部分を大きく変えるということは難しいかもしれないのですけれども。全体計画の方と区の計画の関係、あるいは区で行っていく地域政策の進め方のような部分と各区の計画をどう連動させるかというようなことが大きな課題になってくると思っておりますので、これから最終案に向けましてそういった部分の統一の整理をしてまいりたいと思っております。

今回区別計画について、中間案では審議会の方にご議論いただかないままご了解した上で載せておりますので、大きな方向性でありますとか地域政策の進め方等についてご意見あれば伺いまして、そういった部分を各区別計画の総論やビジョンのようなところで反映を図ってまいりたいと考えております。よろしくお願いいたします。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。区別計画についてのご説明でありました。細かなご指摘も

あるかと思いますが、特に全体計画との関連性とか、どういうふうにとらえたら良いのかとか、お気付きの点何でも結構でございます。

先程、樋口委員からもちっとご提案みたいなものもありましたけれども、何でも結構ですので、お気付きの点ありましたら是非ご発言いただきたいと思います。

私自身は区別計画を区が主体的につくられたということは大変大きな出来事であったと思います。区ができたので、今度は区でその生活圈ぐらいの計画づくりなんかも活発になるのではないかと思います。そういう意味で大変な成果でなかったかなと思いますけれども。

どうぞ皆さんからご発言いただきたいと思います。

菊地委員どうぞ。

菊地昭一委員

せっかく今日、各区役所から出ているのでお伺いしなければと。各区の基本的な政策としては、区の予算って限られた微々たる予算だと思うんですけども、その中でこの今回の各区別の計画づくりに一番大変だったのは何ですか。5人はちょっと時間が掛かりますから、一番規模の大きい青葉区あたりに、ご意見を伺えればと思います。恐らくかなり苦労されたと思うんです。各資料を出したりであるとか、あるいは予算もなかったり限られていたり大変でしょうけど、ちょっと逆に聞きたいなと。

小松洋吉部会長

よろしかったらどうぞ。

堀田青葉区役所区民部長

青葉区の堀田と申します。ご指名でございますので、私の方から。

青葉区の場合は、今菊地委員からご指摘ございましたけれども、区別計画につきましては基本的には青葉区というエリアの中で行う事業について考えていくということで、その事業については基本的には区役所が直接行うものもあれば市の本庁組織で行う事業もあると、そういったものの中で青葉区をエリアとして行うものという想定の下でまとめております。

ただ、その出発点としては、この計画づくりの最初といたしまして、区の特性と動向を把握するということから始めております。現状と課題というふうに置き換えてもよろしいかと思いますが。それを踏まえてその解決のためにこういった施策や事業が必要なのかと考えていって、そしてその中で現在区が直接行っている事業を将来も行って良いだろうという考え方と結び付けていく。それからもう一つは、本庁組織の中で青葉区エリアにおいて行いたいと考えている情報を把握して、それをこの区別計画の中に反映させていくという作業の中でこの計画をつくっていったということがございます。

その過程の中においては、6月下旬から7月にかけて、区内の例えば連合町内会の方でありますとか民生委員児童委員の方でありますとか、そういった主だった団体約100名の方々に對していろいろな機会にその現状と課題という部分の共有というところか

らディスカッションを始めさせていただいて、それで計画づくりを進めていったという経過がございます。

この計画づくり、市の方の本体の基本構想、基本計画づくりといわば同時並行で進めるという部分の中で最初のうちは苦労はございましたけれども、そういった意味で現状と課題の分析から積み上げていったという部分の中で苦労があったと申しますか、試行錯誤の中でこういった形に中間案としてまとめさせていただいているというところがございます。

以上でございます。

小松洋吉部会長

プロセス、手法についてのお話だったと思います。

ほかの区のお聞きしなくて結構ですか。

菊地昭一委員

ちなみに僕の中で、災害に強いというのが3区で災害対応に強いまちづくりというのが示されていて、後、青葉区と宮城野区が重点項目の中には入っていないんですけども。この辺例えば、仙台市として宮城県沖地震が近い将来くるという中で、これはこれでいいんですかね。

梅内総合計画課長

その部分に関しましては、全市の中で当然地震を始めとする災害対策を重視しておりまして、区別計画も個別のところを読んでいただくと、各々の区で各地域特性といえますか、地勢に応じて水に弱い地域あるはその傾斜地の多い地域が多くございますので、そういったところでどの区でも配慮しております。

ただ、概要版にお示ししました区のビジョンの中に、ご指摘にあるように、その災害という部分が入っている区と入っていない区、あるいは高齢者という文字が入っている区と入っていない区というところがありまして、そういったところも中間案の段階で統一しようかどうかというお話をさせていただいたんですが、統一していくとある意味すべて同じような形になってしまうというジレンマがあって、中間案の段階ではその個性も含めて統一をしないで今回はお出しております。

今ご指摘のように、やはりその災害でありますとか高齢化に向けた対応という全市あるいは日本中でなのかもしれませんけれども、そういう重要なものがあって、そういうものを表現方法はいろいろあるにしてもある程度統一すべきではないかというような議論も内部でしておりまして。最終案に向けて、特にその概要版のようなところは各区並べてございますので、市民の方がご覧になったときに違いをすごく感じてしまう。本論を読んでいただくと比較的に同じような状況だというのはお分かりいただけるかと思うんですが、なかなか本編を全部読んでいただくのは難しい中でどういうふうにその部分を表現していくかというのも、先程柳生委員から市民に分かりやすくというご指摘がありました。余り全体を読んでくれというのは現実的ではありませんので、その中でど

ういうふうにお伝えしていくかというのを工夫する必要があるなというような議論をしているところでございます。

小松洋吉部会長

よろしゅうございますか。

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。鈴木委員。

鈴木由美委員

今、区別計画の中でその区の特性と状況に応じた計画をここに打ち出しているというお話でしたけれども、仙台市の総合計画の重点的な取り組みの四つの重点に関して、その点についてのその区ごとのこの項目に沿った重点計画、区ごとの計画ということの大きなくくりとして、例えばこの四つの重点のまず1ならばその内のどの点についてというような形の、もう少し構成的に分かりやすいような構成の仕方にするという案は出なかったのでしょうか。

小松洋吉部会長

区別の方ですか。

鈴木由美委員

はい。

小松洋吉部会長

全体計画との関係ということです。

鈴木由美委員

関係性をちょっと、はい。

梅内総合計画課長

中間案をつくる段階で、市の方の重点政策をつくりながら、先程言ったように区のご意見を聞きながらつくっておりまして、なかなか整合しなかった部分もあるかなと思っています。

ただ、おっしゃるように、いただいているご意見の中でも、今鈴木委員からご指摘ありましたような点について統一性を図るべきではないかといったご意見、先程菊池委員からありましたような区ごとの表題のばらつきのところ、そういったところについてはご意見があるところがございます。そこをどういうふうにしていくか、昨日都市部会でご意見をいただきまして、区別の総論の部分の処理と併せまして、区別計画の体系についても少し見直しができればと思っております。どこまでできるかというところもあるかと思っております。

後区別計画については、正直に申し上げまして今回非常に区の方でがんばりましてと自ら言うのもなんですが、その中でつくってまいりました。それで地域政策等についての方向性を打ち出しておりますので、最終案がどういう形になるかというのはこれからの作業次第なんですけれども、次年度からまさに計画が始まって、そこで区の方で、先程小松部会長からも圏域ごとにどうしていくかを更に深めるというようなご意見がありましたけれども、そういうことに取り組んでいく対象としては非常に今のところ良いのかなと。区別のご意見もたくさんいただいておりますので。こういったことを次年度以降どういうふうに展開できるか。先程大村会長からも世田谷の事例のご紹介などありましたけれども、そういったものに取り組んでいくことと併せて、この区別計画の見直しと全市計画との整合性とかのご指摘の課題にもどこまでできるか、これからがんばってまいりたいと思います。

よろしくお願いします。

小松洋吉部会長

どうなんでしょうか、これ、大村先生。整合性をとることは当然大事だと思うのですが、区の何か個性みたいなものもやはり生かしていく必要があると思うんですね。そこら辺の何というか調和させるというか両立させるのにね、あんまり全体、最初の区別の方になると区の個性が薄らいでいくような気もしないでもないですけど。

大村虔一委員

でも僕は、区があって、市の四つの方針があって、それをマトリックスにして考えた方が良いと思います。例えば学びということでは、青葉区のようにいくつか大学などがあるところは、それなりの学びの施策がある。たとえ大学がなくても、例えば若林の農業のようなものがその仙台市民の健康などにかかわって自活するにはどうしていったらいいか、その方向は、もしかするとアジアの国に輸出できる、あるいは学問的な領域としても成り立つなんていうことになれば、学びにもつながるわけだから。何か区の特徴を出した施策を展開していけば面白いものになると思って期待していますけど。

小松洋吉部会長

なるほど、よく分かりました。

全体のマトリックスとして考えるということになれば整合性も保たれますね。これは大変すばらしい考えだと思いますね。

まだ全体の審議会もありますので、今のいただいた意見等も全体の会議でも是非生かしていただければ良いのではないかと思います。大変ありがとうございました。

ほか、いかがでございますか。

どうぞ、阿部先生。

阿部一彦委員

すみません。いろいろお話を伺っておりまして。

まず始めにフィールドCafeということでお二人のこれまでの体験と市民力ということ
を市民の方々がどうとらえていくかという、これからの方向性も見えたと思っています。

さて、この総合計画の推進に向けては、評価点検というのは大事だと思います。10年
のスパンでの目標を掲げて評価点検する仕組みというところを本当に市民の方々がどう
かわかっていくのか。そしてもう一つは、これは私がよく分からないので質問するんで
すけれども、これまでも計画をつくって、前の基本計画もそうですけれども、そのとき
に市民の方が評価点検にかかわってきたのかどうか、そもそも本当に私分からないでい
ます。

総合計画審議会というのは、この10年間にどういう経緯をたどっていくものなのか。
つくって終わりではないのではないかなと思いながら。今は地域主権とか地方分権とい
う地域らしさというのが問われていくわけですよ。その中にあってこの総合計画、基
本計画をつくってそしてモニタリングをしていく。また、このほかの個別計画も既につ
くられているものもあればこれからつくられていくときに、やはりそれはよく言われる
ことかも知れませんが、計画を絵にかいたもちにならないようにするということ
で、評価点検モニタリングの仕組みに市民が大きくかかわることになると思うんですけ
れども。その辺のところ、評価点検というところに市民協働による評価点検というところ、
今日のお二人の発表を伺いながらこれまでもあったと思いますけれども、更にいろ
いろな工夫ができるのかなと思いました。この辺のところについては、私はモニタリン
グのことですね。

小松洋吉部会長

評価点検の仕組みと区別計画も絡んでくるかもしれません。全体のことと区別のこと
ですね。これはまた問題意識として委員の皆様共通にお持ちだろうと思います。重要な
課題として意見を伺っておきたいと思います。ありがとうございました。

どうぞ、針生委員。

針生英一委員

総論の中で、今後10年の間に区役所の持つ機能がどのように変わっていくのかという
議論がちょっと余りないままに進んでいくのもどうかと思っています。

行革の絡みもあると思うんですけれども、今のままの大区役所制でいくのかそれとも
その機能を変えていくのか。区役所のこれから持つ役割や本庁の役割が変わってくる
のであれば、その辺はきちっと総論の中で書いていく必要があるのかな、そういう大枠
の整理がまだちょっと必要かなと思ったので。

小松洋吉部会長

この中になんていうか。最初、私は正直に言うと驚いたんですけれども、市役所の自
己改革ということで、これ市役所自らを扱っております。それ以上詳しくとなると。こ
の辺りはいかがなんでしょうかね。必要なことだろうとは思いますが、なかなか
お答えし難いんじゃないですか。

梅内総合計画課長

区役所の機能、大区役所制のあり方等については、市議会の方でも非常に大きな論点になっているところでございます。内部組織の見直し等今予定しておりまして、効率化の部分と、あるいはその地域政策を進める上で区の果たすべき役割と、そういったようなところをどういうふうにつくっていくかということは、ちょっと今市議会の中でも議論をしているところなので、断定的に現段階で総合計画の中にお示しすることができないというのが率直な状況ではあります。

大区役所制といって始めた市の区役所の制度でありますけれども、部分的にその経済機能を本庁の方に一元化したりということで段階的に見直しを行ってきておりますが。何が大区役所制かということもあるのかなと個人的には思っておりまして、まちづくり機能といいますか地域政策を進める機能をやはり区の方で持っているということが大区役所制の一番のかなめなのかなと思っておるので、地域政策を進める上で区の役割を今回強調するという意味では残していくという方向性は出るのではないかと考えておるんですが。今市議会での議論も踏まえながらどこまでそれを書き込むことができるのかというのを最終案に向けて調整してまいりたいと考えております。

小松洋吉部会長

そういうことですので、もうしばらくですね。ご意見をたくさんいただくのは大いに結構だろうと思います。ありがとうございました。

時間も近づいてきましたんですけども、是非にという方がありましたら。

では、よろしゅうございますか。

今日は盛りだくさんのご発言をいただきまして、一つ一つまとめたりはいたしませんけれども、次回の会につなげていきたいと思えます。

最後に今後の日程について、ご説明の程、お願いいたします。

梅内総合計画課長

資料5でございます。委員の皆様大変お忙しい中、日程を厳しく絞っていただきながら審議会を進めてまいりたいと思っております。といいますのも、12月議会に向けまして今いただいております市民意見あるいは審議会でのご意見を参考にしながら、中間案の見直しの方角というのを審議会の中でご決定いただければと思っております。

また併せて、市民意見にパブリックコメント等でいただきました市民意見への対応方角、これも審議会でご了解をいただいた上で12月中にできれば公開して市民の皆様にお知らせしていきたいと思っておりますので、その意味で11月中に、当初予定では11月一回を予定しておりましたけれども、厳しい日程ではあるんですが11月中に二度全体会を開かせていただきまして、中間案の見直しの方角性を出していきたいと思っております。

この中で、先程阿部委員からもご指摘がありましたけれども、目標でありますとか評価の仕組みについても、こちらの素案たたき台を出した上でご意見をいただければと思っております。目標につきましては、先程分かりやすいフレーズとかコピーといったと

ころと関連しているのかなと私どもは思っておりまして、そういったものを内部の方で考えておるところでございますので、11月中の審議会の方に何らかのたたき台を出せればと思っております。

ご案内を差し上げているところでございますが、第6回審議会を11月16日18時30分から、第7回の審議会を24日、近くて大変恐縮でございますが18時30分から。11月16日の18時30分から第6回審議会、第7回審議会を11月24日18時30分から開かせていただきたいと思っております、ご案内を差し上げているところでございます。この中で見直しの方向性あるいは目標評価の仕組みの大枠の部分でございますけれども進めていければと思っております。

今、内部の方でも区別計画も含めまして議論しているところでございますので、間に合うようにこちらの方も鋭意作業を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。最終的に1月下旬に答申できますように、今12月下旬、1月中旬の審議会を予定しておりますが、審議の具合をみながら、あるいは会長、部会長とご相談しながら進めたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

小松洋吉部会長

審議会の日程は以上でございます。

(4) その他

小松洋吉部会長

その他、皆さんの方から何かありましたら、ちょっと時間も来てしまいましたですけども。

よろしゅうございますか。

それでは、水野先生終わりに一つ、閉めてください。

水野紀子部会長代行

閉めるようなことはできませんけれども。

でも、本当に最初のご発表から始まって、それから本日のご意見をそれぞれ伺ってみましても、その背景にたくさんの経験を持っておられる方々が、それぞれのマスコミの方だったらやはりこういう言葉をとか、あるいは豊富な市民活動の経験を持っておられる方はやはりその中から、それから事業をしていらっしゃる方はその中から、失敗の経験をとかたくさんのそれぞれの思い、言葉がいろいろな多方面から語られたという気がしています。

事務局の方々、これをまとめられるのは相当に大変だなと思いますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

3 閉会

小松洋吉部会長

それでは、少し過ぎてしまいましたですけども、不手際お許しいただきたいと思いま

す。

これで終わりにさせていただきますが、よろしゅうございますか。

大変ありがとうございました。林さんと宮原さん、ありがとうございました。